

企業との連携を通じてアントレプレナーシップの育成を目指す

## 名古屋市立西陵高等学校(公立)

学科：(7系列)アカデミー、健康スポーツ、ふくし、子ども、経営ビジネス  
国際ビジネス、情報ビジネス

### 特色：

総合学科として、アカデミー、健康スポーツ、ふくし、子ども、経営ビジネス、国際ビジネス、情報ビジネスの7系列を設置。

キャリア教育と探究活動を推進している。



## 事例サマリー

- 活用機材：** 機材：ペンタブレット(Wacom One)  
ソフト：Adobe Illustrator  
実践指導で使ったツール：Teams・Forms・Canva
- 活用場面：** 「ビジネス課題研究」授業
- 育成する力：** 情報収集力・自由な発想力・柔軟性・忍耐力  
社会人基礎力・リーダーシップ
- 対象学年：** 「ビジネス課題研究」科目履修生徒 3年生

### 1分でわかる！／ 取り組みの概要

西陵高等学校では、総合学科の特色を活かし、「ビジネス課題研究」(3年生/78名)の生徒を中心に、アントレプレナーシップの育成を目指した取り組みを年間通して実施しました。

生徒はAIを活用した情報収集を行い、生徒自身が考えたビジネスプランの実現のために、チームロゴや商品イメージ図の作成にペンタブレット(Wacom One)、Adobe Illustratorを使用しました。特に、生徒がメールやSNSを通じて企業に直接交渉し、協力先を探すところから行う実践的な産学連携が特徴です。

また、その前提となる知識や体験として、全1年生(240名)を対象に「情報I」の授業でAIを理解し活用する力の習得を目的とし、ソフトバンク提供の「AIチャレンジ」を導入していることも特徴的です。実習室などのPCで、ChatGPTなどのプロンプトリテラシーや画像生成について体験することにより、AIの具体的な活用方法を学び、情報のファクトチェックを行うことで批判的思考力を養うことを重視しています。これらの活動を通じて、生徒に社会で必要とされる「DXに強い社会人基礎力」の向上につながります。

お話を聞かせてくれた先生



鈴木一平先生

商業科・情報ビジネス系列長  
座右の銘：雨垂れ石を穿つ  
趣味：飲み歩き

Q.なぜ今回の取り組みをしようと思ったのですか？(背景・課題)

昨今、国際社会の中で新しい価値を見出す能力が求められており、特にビジネス系の授業においては必要不可欠であると考えています。ビジネス課題研究(3年生)では、ビジネスイノベーションを見出すことができるアントレプレナーシップを持つ教育を行い、生徒が社会に出る前に、目標設定から提案し、実践の結果が失敗であっても、失敗から学ぶ経験をできるように設計を工夫しました。また、1年生時に情報Ⅰの授業において、AIを理解し活用する力が不可欠となる社会に対応するため、教科書では伝わりにくいAI活用を全生徒に体験させることで生成AIへの抵抗感をなくし、批判的な思考力(真偽の検証)を養うことを目指しました。

**プラスα！**  
**全1年生で生成AIの活用を体験！**

【対象】「情報Ⅰ」科目履修生徒 1年生(約240名)

生成AIに関するベースの知識を身に付けさせるため、ソフトバンクが提供する「AIチャレンジ」を活用して「AIを知る」「AI活用企画を作る」「AI構築を体験する」「AIを役立てる」という4点を2時間の授業で実施しました。

これによって生徒の生成AIのリテラシーを高め、3年次の主活動の効果性をさらに高めていくことが目的です。

授業設計のポイント

① 身の回りのテーマから課題を設定する

身の周りや社会で問題となっていることなどを参考にして、どのようなビジネスが必要か、インターネットや生成AIを通じて情報を収集、課題解決に向けて、新しいビジネスプランを作成させました。

② 客観(レビュー)と協働の視点を取り入れる

各自考えたビジネスプランについて発表を行い、生徒が互いに評価させました。生徒同士でレビューをすることによって、客観的な視点を養えるよう工夫しました。その後、生徒がアイデアを持ち寄ってグループを作り、協働でビジネスプランを再作成させました。

③ 産学連携でリアルな視点を取り入れる

グループで考えたビジネスプランに対して、協力していただける企業を生徒自ら探すところから実践しました。直接協力依頼を行い、企業からの助言をいただきながら、ブラッシュアップして、発表を行うよう工夫しました。これにより生徒のアントレプレナーシップの育成にも大きく貢献しました。

取り組みの全体像／年間スケジュール

生徒	【4～6月】 個人でビジネスプランを作成する	【7月】 発表会后にグループ作り ビジネスプランを再構築する	【9～10月】 協力企業を探して ご指導ご助言をいただく	【11月末】 外部機関において ビジネスプランの発表	【12～1月】 振り返りと卒業レポートの作成
教員	【4～6月】 ビジネスイメージの助言・指導	【7月】 発表会の準備・評価	【9～10月】 協力企業への挨拶、スケジュールの確認	【11～1月】 レポート作成指導・評価	

▼京都大学でのプレゼンテーションの様子

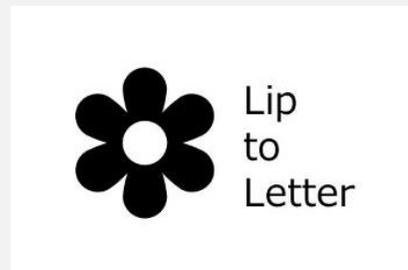
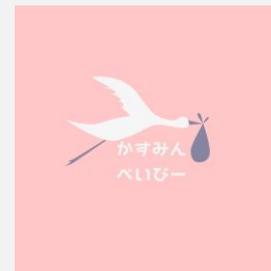


ここがPOINT!!

TeamsやFormsを利用!

生徒が企業へのメール文案を教員に確認・添削してもらうための進捗管理とリスク管理にTeamsを活用。また、教員の欠席連絡や調査票の収集・集計といった事務作業の効率化ため FormsやPower Automateなどを利用しました。

▼パンタレットやAdobe Illustratorを使用して製作したチームロゴ



～生徒の感想より～

最初は何から始めたらいいのかわかりませんでしたが、課題を自分から探して、それを解決するためにさらに詳しく調べていくことで、深く学ぶことができました。

グループ活動が始まってからは、どのような内容で発表していくかを決めることが難しく、夏休みに集まることもありましたが、その結果、企業にメールを送るなど主体的に行動できるようになりました。

最後の最後まで手直しを重ね、みんなで練習して本番を迎えられたことは、とても良い経験になりました。

Q. 本取り組みで工夫したこと、成功のポイントを教えてください

生徒のモチベーション向上のため、自分たちが考えたビジネスプランに対して、生徒がメールやSNSを通じて企業に交渉しました。直接レビュー受けるために企業訪問などを行うことで、外部機関から評価を受ける機会を創出し、社会での実践を経験させました。

ただ、企業に失礼のないよう送信前に必ずTeams上で文案を確認・添削し、リスクを管理するようにしたり、「断られたり無視されたりするのはビジネスではよくあることである」ということを伝えることで、生徒の意欲維持を図りました。教師側のフォローと企業と直接アプローチをする実践を通じて、生徒はビジネスコミュニケーションの難しさを体験し、進路(総合型選抜など)でアピールできる強力な経験材料になったと感じています。

実践！DX成功のヒント

1 指導の効率化にもDXツールを活用する

TeamsやFormsなども活用し、指導の効率化を図る

🔄 必要な機能と効率化したい機能の選定、ツールの洗い出し

2 身近なテーマ設定から入る

理論ではなくAIが日常にある事実から関心を喚起する

🔄 入口の設計が重要！生徒の関心事とDXの取り組みをリンクさせてみる

3 思考力、創造力向上に直結するDXツールの活用

考えたり、アウトプットにAIやCanvaなどのツールを活用する

🔄 授業設計際に思考や調べもの、アウトプットにAIやツールが使えないか検討

取り組みを通じて養われた力



専門的な知識・スキル  
Technical skills

- ・AIを駆使したビジネスプランの構築能力
- ・タブレットなどを使用したデザイン力



考える力  
Thinking skills

- ・ビジネスイノベーションへの創造力
- ・情報に対する批判的思考力



関わる力  
Social skills

- ・グループ協働など協調性
- ・リーダーシップ



伸ばし続ける力  
Meta skills

- ・社会的な多くの課題を多面的に捉える力
- ・状況を分析し、仲間と協働しながら解決へ導く実行力

【事例集を手にする先生方へ:メッセージ】

教科書がなく手探りも多いですが、コーチングな視点で生徒をサポートするように授業を進めていきます。企業の方も協力的な方々が多いです。実践後の生徒の感想として、とても満足度の高い声が多く聞かれます。